



## 日本抗加齢医学会 2018年第1回メディアセミナー 開催報告

開催日時 2018年4月12日(木) 15:00~17:00

開催場所 日本橋ライフサイエンスビルディング 201会議室



太田 博明 日本抗加齢医学会理事、広報委員会委員長

国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授

山王メディカルセンター 女性医療センター センター長

1947年当時、日本人の平均寿命は男性では50歳を超える程度だったが、現在では男性の4人に1人、女性の2人に1人は90歳を超えて生きる時代を迎えている。長生きリスクという言葉があるが、医学的な側面でも、「人生50

年」時代の臓器をもって90年、100年を生きるためには、各自の覚悟と取り組みが必要である。そうした現状を踏まえ、日本抗加齢医学会は、幸せな加齢（幸加齢）を願い、加齢を考える（考加齢）人を増やし、加齢を好ましい（好加齢）と思える世の中を実現させるために活動していきたいと考えている。

## 日本抗加齢医学会の目指すもの

堀江 重郎 日本抗加齢医学会理事長

順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学教授

東洋には、長い人生経験を叡智としてとらえ、高齢者・長寿者を尊敬する文化がある。また、古来は長寿に達することが稀だったので、高齢者は希少な存在であり、加齢には「プラスの価値」があると考えられてきた。しかし、高齢化の進展によって、高齢者の希少性はなくなり、「育成人口」「生産人口」「老年人口」といった年齢による社会階層もあいまいとなった。年齢に関してボーダレスな「**ユニエイジ**」の時代を迎えたのである。



加齢を医学的に考えると「DNA の損傷の蓄積」であり、その表現型として、認知力の低下、筋肉量と筋力の減少、骨粗鬆症、内臓脂肪の増加、心血管機能の低下などが生じる。背景には、酸化ストレスの増加、免疫応答の変化、炎症、昼と夜を区別する「概日周期」の変調、自律神経系の失調がある。

酸化ストレスについて言えば、我々が摂取したカロリーからエネルギーを生みだすときに生成される活性酸素が、多くの病気・病態と関わっている。種々の動物を比較すると、体重当たりの酸素の消費量と寿命は反比例することが分かっている。一方で、摂取カロリーを減らせば活性酸素も減少することから、動物ではカロリー制限と寿命の延長が示されている。医学誌 Cell でも、科学的に証明されたアンチエイジングとして、運動、カロリー制限、絶食の 3 つを挙げている。DNA の損傷を防ぐ SIRT1（サートワン）の活性化が関係しているようだ。

以上をまとめると、加齢そのものが遺伝子の異常を来し、病気の原因となるので、遺伝子異常のメカニズムを解明し、遺伝子素質に基づいた予防医療を行うことが期待される。それが抗加齢医学であり、**「加齢に伴って生じる負の現象が起こらないよう行動する学問領域」である。**「抗」という文字には、「負の価値を打ち消す行動」という意味が含まれる。

**学会としてのミッションは、専門家の内部でしか通用しない常識を広く学際的に行動すること、研究成果を共有し社会にアウトリーチすることだと考えている。**アンチエイジングの実践により、お互いが「あの人はハツラツとしている」と思えるような社会を目指して活動していきたい。

## 第 18 回日本抗加齢医学会総会のトピックス



山田 秀和 日本抗加齢医学会副理事長  
第 18 回日本抗加齢医学会総会会長  
近畿大学医学部奈良病院皮膚科教授  
近畿大学アンチエイジングセンター 副センター長

第 18 回総会のポイントは、総会のテーマにもなっている  
Anti-Aging Environment (A2E)、それに  
Exposome (エクスポソーム)、Epigenome (エピゲノム)

の 3 つの語句である。A2E は、アンチエイジングのための環境、環境によるアンチエイジングの実現の双方の意味合いを含んでいる。エクスポソームは、生物体をあらゆる外部環境との関係の中で、しかも時間的な経過を含めてとらえる概念である。ちくわを思い浮かべれば、輪の内側も外界と接していることがわかるだろう。ヒトに当てはめれば、皮膚の細菌叢も腸内細菌叢も外部環境であり、エクスポソームの概念をしっかりとらえることが必要である。そして、エクスポソームの理解に必要なのが、環境因子の遺伝子への働きを示すエピゲノムの概念である。

本総会では、特別講演として David Sinclair 先生にエピジェネティックな変化がいかに加齢に関係しているかをお示しいただく。もう 1 つの特別講演として James Kirkland 先生に、老化細胞から出る分子を同定してその分子を止めれば、老化は止まるかもしれないという研究をお話しいただく。

招待講演では、睡眠の専門家であるスタンフォード大学の西野精治先生に「抗加齢医学における睡眠衛生」について、もう 1 つは見た目の科学について取り上げ、I.C.O.N.の石井リーサ明理先生に「光と美～陰翳礼讃の世界」をテーマにご講演いただくことになっている。

エクスポゾームの観点からは、建築学の専門家を招き、光・湿度・温度といった環境因子と健康の関係をとらえていく。外界に接する表面という意味の「FACE」の概念から、介護のための陰部脱毛や、尿失禁の立場からの陰部のアンチエイジングに関するセッションも設けた。

健康寿命の延伸には、運動、食事、精神、環境への介入が重要である。そして、それをさらに精密にしたのがプレジジョンメディシン、すなわち遺伝的因子に基づく介入である。抗加齢医学においても、一人ひとりの遺伝子、環境、生活習慣に合わせた健康維持・予防医療の方向に向かうと考えている。

以上



ご参加いただきました、  
67名の皆様 ありがとう  
ございました。